

Column

あのクリスティーズでアジア人初のワインスペシャリストとして活躍した、世界に誇る日本女性の渡辺順子さんがお届けするワインコラムです。

渡辺順子のワインに乾杯!

前号までの話

美味しいラトゥールに会場は皆ハッピーな雰囲気。
ワインがこの場を助けてくれると私は直感した……

第12回

前菜の皿が下げられ、きれいに磨き上げられたグラスがテーブルに並び、いよいよラトゥールの2000年と1961年がサーブされようとしていた。それはクリスティーズのオーナーであり、世界の大富豪としても名が挙がる、シャトー・ラトゥールの所有者、フランソワ・ピノー氏から直々に届けられたものだった。同僚のジャスティンはワインの状態を確認するため、素早く席を立った。私もジャスティンに続き、デキャンタージュされた2000年のラトゥールの香りを嗅いだ。

ワインには5000種類以上の香りの成分が含まれていると言われるが、このラトゥールは5000種類では足りないと思わせるほど、複雑で奥深い香りが立ち込める。ワインを口にしたジャスティンの様子から、まさしく最高の出来であると確信した。彼も私も、ワインに対しては決して嘘が言えない。美味しいワインを飲んだ時の高揚感は抑えることが出来ず、反対に美味しくないワインを飲んだ時の失望感も隠すことが出来ない。

通常は専属のソムリエにサーブさせるが、今日はジャスティン自らデキャンタを持ち、ひとりひとりにサーブし、それぞれが感じたワインの感想を聞こうとしていた。ジャスティンの隣に座っていた顧客は彼が席を離れたため、手持ち無沙汰にしている。

私は、「2000年、最高の状態です」とクロフォード氏に伝えた。彼は安心したように微笑みを浮かべた。

私はグラス1杯のワインで人生を変えた。この世にこれほどおいしいものが存在するのなら、私の人生をワインに賭けてみよう。そう決心し、前職を辞め、ワインの仕事をするためにフランスへ渡った。そして、クリスティーズでワインスペシャリストとなるため、NYに戻り、狭き門を突破したのだ。ワインには、人生を変えてしまうほどのパワーがある。

ディナーが始まるまでは、半ば開き直りの気持ちで「ワイン頼み」をしていた私だったが、この後、ラトゥールの2000年、1961年と続く。ワインがミラクルを起こすとはっきり確信した。



「manipulate」という単語がある。訳すならば「言葉巧みに操

る」とでも言うか、アメリカ人がよく口にする単語だ。私は上司のリチャードからクロフォード氏を「manipulate」するように言われていた。サザビーズとはどこまで話が進み、どんな条件を提示されているのか、我がクリスティーズとしては喉から手が出るほど彼のコレクションが欲しいが、出品を決める際の彼の最低条件は何なのかを、我々の足元を見られずに聞き出すように、とのお達しであった。しかし、無意識のうちに私の口からこんな言葉が出てきてしまった。

「クロフォードさんのワインを出品してくれませんか？」

2000年産ラトゥールをサーブするジャスティンを目で追っていたクロフォード氏の目が私に向けられた。彼は私の突然の発言に面食らったようであるが、微笑んでいる。先ほど2000年産ラトゥールの出来がよいと伝えた時の微笑みではない。投資家としてインタビューを受けていた時に見せる微笑みに似ていた。

私の率直な申し出に、クロフォード氏の立場は完全に優位に立ってしまった。彼とサザビーズとの話の進み具合によっては、この交渉はこちらが優位に立てるはずだったのだ。彼は次の言葉を待っていたが、私は言葉が続かなかった。そこへ、ジャスティンが2000年産のデキャンタを持って我々のテーブルへ現れ、グラスにサーブしてくれた。ラトゥールの魔法の香りが、そこに流れていた少し重い空気を吹き飛ばしてくれた。



渡辺順子(わたなべじゅんこ)

1988年に米国・ニューヨークに留学。ニューヨークにて日系航空会社勤務、ファッション関連の自営業の後、2000年ワインの勉強のため渡仏。その後、ニューヨークへ戻り、世界最大のオークションハウス、クリスティーズ・ニューヨークにて、アジア人初のワインスペシャリストとして在籍。2009年、株式会社FIFTHへワイン部門責任者として任命され、韓国、ニューヨーク、日本でワインセミナー、イベントを開催。欧米のワインコレクターやワイン商と取引し、アジア諸国で活躍。2010年、プレミアムワイン株式会社を

日本に設立。2010年末に出版した新書「日本のロマネ・コンテはなぜ「まづい」のか」(幻冬舎ルネッサンス)が好評発売中。

<http://www.premiumwine.co.jp> <http://www.wguide.jp>